

第37回 うつのみやこども賞だより

令和2年度 8回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ドーナツの歩道橋』

升井純子／著（ポプラ社）

『世界とキレル』

佐藤まどか／著（あすなろ書房）



令和3年1月10日

～読んだ本の感想より～

- 好き、きらいが分からなくなった主人公。そこから自分なりの答えを見つけるのはすごい。自分だったらすくなくやんでしまいそう。
- 主人公の麦奈がチャキと出会ってから、いろいろな大変なことを少しずつのりこえていて、かっこいいと思った。
- 友達、家族、当たり前のようにしている日々を大切にしながら過ごしていくのが良いなと感じた
- 友情について考えさせられました。
- 家のことが大変な中、がんばっている姿に感どうした。



- 3週間スマホがない生活をするっていうのが私自身も考えられなくて、舞ちゃんはすごいなと思った。
- 「ケータイが自分のすべて」だと思っている舞が自然にふれて分かったこと・仲間という楽しさを知ってくれて本当に良かったと思います。
- 舞ちゃんにすごく共感しました。もし私があの話し合いに参加していたら・・・などと考えていたら、とても勇気をもらえました。
- 話にリアリティーがあって面白かった。舞が脱走しようとしたときの気持ちに共感できた。
- けいたいがないだけで、あんなに大変なんだな、と改めてじっかんしました。

『大嫌いな君に、サヨナラ』 いかだかつら／著（PHP研究所）

- かれんちゃんはだれとも仲良くしようとしなかったけど、それには理由があったり、ひっこしするたびにきずついたりしていかわいそうだった。
- 主人公はとても元気で少しらんぼうですが、その中にやさしさもあるから、都波みたいな人にもやさしくできたんじゃないかなと思いました。
- 嵐は少しおもしろい人だった。1章ずつ出てくる日記もいんしょう的でよかったです。
- 文人と嵐の友だち関係についても、ラストの方はすごくびっくりしました。二人であらしを見つめるシーンに感動しました。

『マギオ・ムジーク』 仁木英之／作（JULA出版局）

- 物語と音楽が同時に楽しめるし、音楽のことがよくわからない人にもおすすめできる本です。
- 音楽もふかい歴史があるんだと思った。
- すごく難しいお話だった。ムジークは使えるとすごいものだけど、怖い。新しい言葉がとても多くてびっくりした。
- 音楽で魔法をつかっていたのでおもしろいなと思った。